

環境経営レポート

【 2023年度 】

[発行日：2024年5月22日]

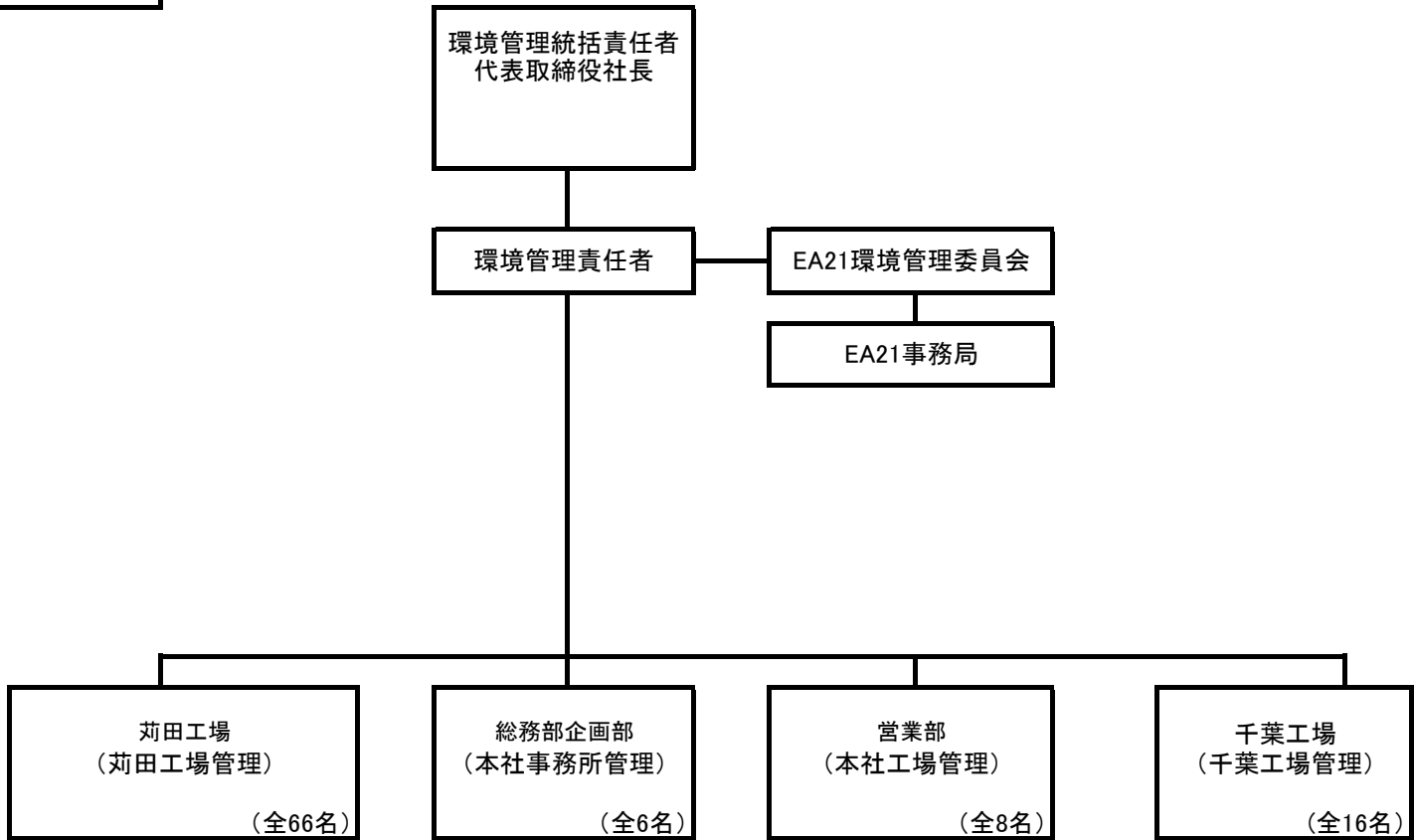
[期間：2022年11月1日～2023年10月31日]

(株)日栄紙工社

組織の概要

事業所名	株式会社 日栄紙工社
代表者名	代表取締役社長 宮崎 勝 専務取締役 宮崎 勝裕
所在地	本社・本社工場 〒802-0085 福岡県北九州市小倉北区吉野町12番地16号 土地面積：829㎡ 建物面積：1,409㎡ TEL (093) 921-8785 FAX (093) 922-5170 苅田工場 〒800-0307 福岡県京都郡苅田町新松山1丁目5番地 土地面積：13,302㎡ 建物面積：9,120㎡ TEL (093) 434-1731 FAX (093) 434-1741 千葉工場 〒299-0109 千葉県市原市千種1-7-4 土地面積：2,083㎡ 建物面積：1,041㎡ TEL (0436) 20-3202 FAX (0436) 20-3203
環境管理責任者	梶谷 周一
連絡担当者	真砂 誠二 連絡先：本社に同じ
事業の概要	ダンボール製品、ダンボールプラスチック製品、各種紙器、 環境配慮型包装資材の設計・開発・製造及び販売
対象範囲（認証・登録範囲）	全社・全組織・全活動 対象サイト：本社・本社工場、苅田工場、千葉工場 対象範囲：ダンボール、ダンボールプラスチック、紙（全社・全組織・全活動）
資本金	2,000万円
売上高	2,069百万円（2023年度）
従業員数	96名
沿革	1954年 11月1日創業 1957年 1月 ダンボール事業部開始 1987年 9月 苅田工場 苅田物流新築稼働開始 1998年2月 CFG(段ボール緩衝材製造法) 機稼働開始（苅田工場） 2003年8月 本社工場ダンボール生産を苅田工場に統合 2004年5月 ダンボールプラスチック事業部を開設 2006年8月 CFG関する米国特許取得 2011年2月 千葉工場開設 2015年5月 通販事業開始 2024年5月 苅田町新松山に新工場開設 現在に至る

EA21実施体制



役割分担表

所属(役職)	役割・責任・権限・使命
環境管理統括責任者 (代表取締役社長)	全体の統括、環境方針の設定、環境への取組を実施するための資源の準備、全体の評価と見直し
環境管理責任者 (荏田工場長)	全体の把握/環境経営システムを構築し、運用し、その状況を社長に報告する
EA21環境管理委員会	3ヶ月に1回開催し、環境目標の達成状況及び活動計画の実行状況を審議する
EA21事務局	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理
荏田工場 (企画部長)	電力・水・燃料消費量・化学物質・廃棄物の管理 (荏田工場)
総務部企画部	電力・水消費量の管理 (本社事務所)
営業部 (営業課長代理)	電力・水・燃料消費量の管理、環境配慮型商品の開発・拡販 (本社工場管理)
千葉工場 (工場長)	電力・水消費量・カソリン使用量の管理 (千葉工場管理)

環境経営方針

（基本理念）

株式会社日栄紙工社は、地球環境の保全が社員、地域、社会、取引先全ての人々の全ての幸せの追求に重要な課題であると認識し、環境経営の取り組みを通じて持続可能な社会の実現に貢献をしていいきます。

1. 当社の事業活動（ダンボール、ダンボールプラスチック、紙、包装の設計・開発・製造及び販売）において目標を設定し、環境経営システムを推進し、定期的に運用を見直し継続的に改善に努めます。
2. 当社の活動を推進するうえで、次の重要課題を取り上げて実行します。
 - （1）二酸化炭素排出量削減（省エネルギー）を推進します。
 - （2）排水量の削減に努めます。
 - （3）各職場において分別を徹底し、廃棄物の削減に努めます。
 - （4）化学物質使用量削減に努めます。
 - （5）環境にやさしい製品の開発と販売を推進し、社会に貢献して行きます。
3. 法律・規制・条例及びその他の要求事項を遵守します。
4. 当社で働く又は当社のために働く全ての人に対する意識向上を促す為環境方針を周知させ、教育や社内広報活動を実施します。
5. 環境経営方針は、広く一般に公表します。

改定日 2020年11月01日
株式会社 日栄紙工社
代表取締役社長
宮崎 勝

環境経営目標

(2023年~2025年)

目標項目	目標設定基準	2023年度目標 (22.11~2310)	2024年度目標 (23.11~2410)	2025年度目標 (25.11~2610)
二酸化炭素排出量の削減	CO2排出量/売上高 2022年度： 416,577kg/189,200万円=2.20	2022年度比0.01削減 2.19	2022年度比0.02削減 2.18	2022年度比0.03削減 2.17
使用電力の削減	全 社 2022年度：384,954kWh	2022年度比1%削減 381,104kWh	2022年度比2%削減 377,255kWh	2022年度比3%削減 373,405kWh
	苅田工場(電力量/シート入荷㎡) 2022年度307,748kWh/3,576k㎡=86.06	2022年度比0.01削減 86.05 (kWh/㎡)	2022年度比0.02削減 86.04 (kWh/㎡)	2022年度比0.03削減 86.03 (kWh/㎡)
	本社事務所(総務・企画部) 2022年度：22,939kWh	2022年度比1.5%削減 22,595kWh	2022年度比2%削減 22,480kWh	2022年度比2.5%削減 22,366kWh
	本社工場(営業部) 2022年度：9,669kWh	2022年度比1.5%削減 9,524kWh	2022年度比2%削減 9,476kWh	2022年度比2.5%削減 9,427kWh
	千葉工場(電力量/シート購入額 2022年度：44,598kWh/166.9 百万円=267.2	2022年度比0.5%削減 265.9	2022年度比1%削減 264.5	2022年度比1.5%削減 263.2
	千葉工場(使用量/シート入荷㎡) 2022年度:34,746ℓ/3576141k㎡=9.72	2022年度比0.01削減 9.71	2022年度比0.02削減 9.70	2022年度比0.03削減 9.69
ガソリンの削減	本社 ガソリン・軽油の使用量の削減 2022年度：12, 111 ℓ	2022年度比1.5%削減 11,929 ℓ	2022年度比2.0%削減 11,869 ℓ	2022年度比2.5%削減 11,808 ℓ
	千葉工場 2022年度： 4, 739 ℓ	2022年度比1.5%削減 4,668 ℓ	2022年度比2.0%削減 4,644 ℓ	2022年度比2.5%削減 4,621 ℓ
LPGの削減	苅田工場フォークリフト・給湯設備 2022年度：9,812 k g	2022年度比1.5%削減 9,665 k g	2022年度比2.0削減 9,616 k g	2022年度比2.5削減 9,567 k g
廃棄物の削減	廃プラ発生量の削減 2022年度：0.61 (廃プラ産廃処理 量 k g /総廃プラ量 k g)	2022年度比0.01削減 0.60	2022年度比0.02削減 0.59	2022年度比0.03削減 0.58
水使用量の削減	苅田工場 2022年度：524㎡	2022年度1.5%削減 516㎡	2022年度比2.0%削減 514㎡	2022年度比2.5%削減 511㎡
	本社事務所 2022年度：89.5㎡	2022年度比1.5%削減 88.2㎡	2022年度比2.0%削減 87.7㎡	2022年度比2.5%削減 87.3㎡
	本社工場 2022年度：42.0㎡	2022年度比1.5%削減 41.4㎡	2022年度比2.0%削減 41.2㎡	2022年度比2.5%削減 41.0㎡
	千葉工場 2022年度：157㎡	2022年度比1.5%削減 154.6㎡	2022年度比2.0%削減 153.9㎡	2022年度比2.5%削減 153.1㎡
化学物質使用量削減	糊の削減 2022年度：13.5 (g/CFG㎡)	2022年度比0.1削減 13.4 (g/CFG㎡)	2022年度比0.2削減 13.3 (g/CFG㎡)	2020年度比0.3削減 13.2 (g/CFG㎡)
環境配慮型商品の開発	環境配慮型商品 (CFG、ダンブラ、 ダンボール、その他)の 開発件数2022年度新規商品化登録 件数(948件)	2022年度比4件増 952件	2022年度比5件増 953件	2022年度比6件増 954件

※ 使用電力に関わるCO2の総排出量の計算は本社・苅田工場は九州電力の公表値(0.462)を使用
本社工場は北九州パワー(0.118)、千葉工場は東京電力(0.376) 2022年度公表値を使用

※ 糊の削減は糊使用量をCFGという機械の生産㎡で割ったもの。

※ ダンブラとは、ダンボールプラスチックの略称です。

環境経営計画

(2023年度)

目標項目		部署	取組	実施スケジュール											
				11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	苅田工場	・生産性向上の為の改善活動 ・クールビズ推進 ・新工場での実績調査												
		事務企画	・温度設定の監視 ・クールビズ推進 ・不必要箇所の消灯徹底												
		千葉工場	・生産性向上の為の改善活動 ・クールビズ推進 ・節電の啓蒙												
		営業	・温度設定の監視 ・クールビズ推進 ・節電の啓蒙												
	ガソリン・軽油の削減	苅田工場	・実績評価 ・改善案策定（必要な場合） ・配送計画の調整												
		千葉工場	・実績評価 ・改善案策定（必要な場合） ・エコドライブの推進												
		営業	・実績評価 ・改善案策定（必要な場合） ・エコドライブの推進												
	LPガスの削減	苅田工場	・実績評価 ・改善案策定（必要な場合） ・新工場での実績調査												
	プロパンガスの削減	苅田工場	・実績評価 ・改善案策定（必要な場合） ・新工場での実績調査												
	水使用量の削減	苅田工場	・水漏れ点検 ・新工場での実績調査												
		事務企画	・水漏れ点検 ・改善案策定（必要な場合） ・節水の啓蒙												
		千葉工場	・水漏れ点検 ・実績評価 ・改善案策定（必要な場合）												
		営業	・水漏れ点検 ・節水案追加策定（必要な場合） ・節水の啓蒙												
	廃棄物の削減	苅田工場	・有価化可能素材の再調査 ・材料手配の見直し ・分別の徹底												
	化学物質の削減	苅田工場	・不良対策強化												
	環境配慮型商品の開発の増加	営業	・活動の見直し検討 ・見直し実施 ・開発の実施 ・活動のまとめ												

取り組み結果と評価（2023年度）

目標設定基準	目標 【2023年度】	実績 (22.11 ～23.10)	判定	取組結果と その評価	次年度の取組
電力使用量 刈田工場 (電力量/シート入荷㎡) 2022年度： 307,748kWh/3,576k㎡ =86.06 (kWh/k㎡)	2022年度比 0.01削減 86.05	401414kWh/3 524429㎡ =113.89	X	(刈田工場) ・クールビズ推進 ・生産性向上の改善活動実施 ・新旧工場2拠点での並行稼働にてトータルの電力量が増大	・生産性の向上 ・ノー残業デー推進
電力使用量 本社事務所 2022年度：22, 939kWh	2022年度比 1.5%削減 22,595kWh	22,260 kWh	O	(総務部企画部) ・夏期の室温28度を徹底。監視担当者を任命して監視・管理を行った。	・節電の啓蒙 ・不使用機材のこまめなOFF操作の指導
電力使用量 本社工場 2022年度：9,669kWh	2022年度比 1.5%削減 9,524kWh	6,925 kWh	O	(営業部) ・残業時間の削減 ・サンプルカッター機の計画的な運用	・節電の啓蒙 ・不使用機材のこまめなOFF操作の指導
電力使用量 千葉工場 (電力量/シート購入額) 2022年度:44,598KWh /166.9百万円=267.2	2022年度比 0.5%削減 265.9	260.7	O	(千葉工場) ・残業時間の削減 ・生産の効率化	・生産性の向上
電力使用量 全社 2022年度 384,954kWh	2022年度比 1%削減 381,104kWh	475,875 kWh	X	・残業時間の削減 ・新旧工場2拠点での並行稼働にてトータルの電力量が増大	・生産性の向上 ・ノー残業デー推進
軽油の削減 刈田工場 (使用量/シート入荷㎡) 2022年度:34,746ℓ /3576141k㎡=9.72	2022年度比 0.01削減 9.71	10.60	△	(刈田工場) ・配送の外注委託の割合の増大	・配送計画の再検討
ガソリン・軽油の削減 本社（営業部） 2022年度 12,111ℓ	2022年度比 1.5%削減 11,929ℓ	10,905.82 ℓ	O	(本社) ・商談の集約	・商談の効率化 ・Web会議利用
ガソリンの削減 千葉工場 2022年度 4,739ℓ	2022年度比 1.5%削減 4,668ℓ	5,701.28 ℓ	X	(千葉工場) ・商談回数の増加による走行距離の増加	・商談の効率化 ・Web会議利用
LPGの削減 刈田工場 2022年度9,812kg	2022年度比 1.5%削減 9,665kg	10183.0㎡	△	(刈田工場) ・新旧工場2拠点での並行稼働にて荷役作業増大 ・新工場において給湯設備電化によるガス使用の削減	・新工場のみの実績を基準に目標値の再検討
廃プラ発生量の削減 2022年度：0.61 (廃プラ産廃処理量kg /総廃プラ量kg)	2022年度比 0.01削減 0.60	0.69	X	・分別の徹底の啓蒙 ・旧工場撤去による廃棄物の増加	・今後も分別状況の管理、作業の啓蒙を行っていく
水使用量の削減 刈田工場 2022年度 524㎡	2022年度比 1.5%削減 516㎡	541.0 ㎡	△	(刈田工場) ・新旧工場2拠点での並行稼働にて使用量増大	・新工場のみの実績を基準に目標値の再検討
水使用量の削減 本社事務所 2022年度 89.5㎡	2022年度比 1.5%削減 88.2㎡	97.5 ㎡	X	(本社事務所・総務部企画部) ・節水の啓蒙 ・来客増加による使用量増加	・節水の啓蒙
水使用量の削減 本社工場 2022年度 42㎡	2022年度比 1.5%削減 41.4㎡	34.0 ㎡	O	(本社工場・営業部) ・節水の啓蒙 ・作業時間の削減	・節水の啓蒙
水使用量の削減 千葉工場 2022年度 157㎡	2022年度比 1.5%削減 154.6㎡	148.0 ㎡	O	(千葉工場) ・残業時間の削減 ・生産の効率化	・節水の啓蒙
化学物質（糊）の削減 2022年度13.5(g/CFG ㎡)	2022年度比 0.1削減 13.4	13.3	O	・不良率の削減	・CFG不良原因対策強化
環境配慮型商品の開発 2022年度 新規商品化登録件数948件	2022年度比 4件増 952件	1,202 件	O	・商談・案件の増加	・目標値の見直し

※ 判定基準:増加目標項目の場合は2020年度比で100%以上=O,90%以上100%未満=△,90%未満=X
削減目標項目の場合は2020年度比で100%未満=O,110%未満=△,110%以上=X

※ 糊の削減は糊使用量をCFGという機械の生産㎡で割ったもの。

環境経営目標の実績（3年間の実績）

二酸化炭素排出総量、廃棄物排出量、水の総使用量

項 目		2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素排出総量	kg-CO ₂	335,429	364,000	415,577
	kg-CO ₂ /売上額(百万円)	1.88	1.92	1.99
廃棄物排出量	総排出量(t)	738,755	689,392	572,761
	再資源化率(%)	0.73	0.81	0.95
水の総使用量(m ³)	m ³	744.0	812.5	820.5
	m ³ /売上額(百万円)	0.42	0.43	0.40

環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟などの有無

当社が遵守しなければならない主な環境関連法規等は次の通りです。
 ○廃棄物処理法 ○浄化槽法 ○騒音規制法 ○消防法 ○フロン排出抑制法
 それらの遵守状況を確認した結果、環境関連法規への違反はありませんでした。
 尚、関係当局よりの違反の指摘、利益関係者からの訴訟等もありませんでした。

代表者による全体評価と見直しの結果

各項目について目標を達成すべく各部署にて啓蒙活動や業務改善活動に取り組みました。今期は、受注が増え、それに伴い生産量も想定以上に増加したこと、また新工場の立ち上げによる新旧両工場並行稼働期間があった為に電気の総使用量が増えてしまいましたが各部署での業務改善等による生産性向上により想定よりも増加が低く抑えられたのではないかと評価します。

これは各部署においての意識の向上や改善の賜物と思います。また、営業活動も活性化して業績を上げていること、工場において業務改善が活発に成されていることは大いに評価しています。また、千葉工場の生産量の増加が顕著であり、今後の目標設定の再検討も必要です。

我が社はCFGという環境にやさしい開発商品群を持っており、これ拡販していくことで地球環境に優しい社会づくりに貢献することができます。地域社会に根付いた環境経営を今後とも推進して参ります。

2023年11月 代表取締役 宮崎 勝

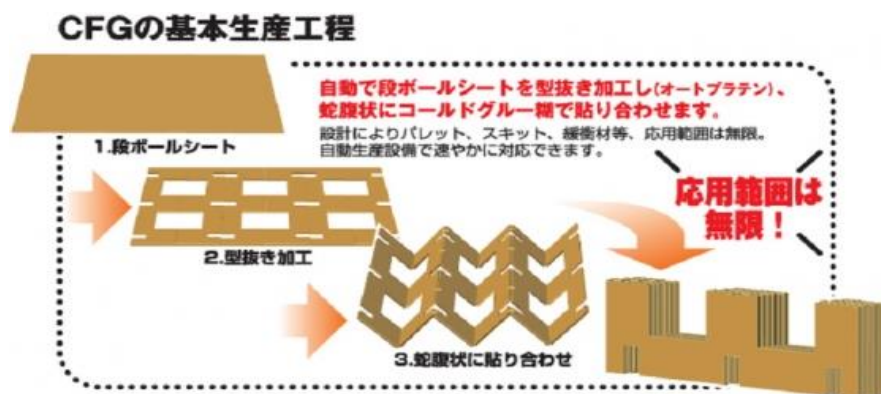
環境活動の取組状況

I. [わが社で開発した環境にやさしい・開発商品]

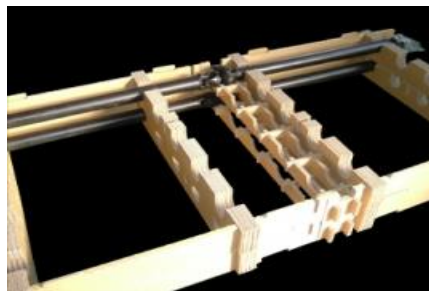
弊社が平成10年(1998)に開発した発泡スチロールや木枠に代わるリサイクルが容易な段ボール緩衝材「CFG(クッション・フレキシブル・グルー)」。

CFGは包装する製品の形状に合わせて段ボールを打ち抜き、それを糊付けし重ね合わせて製造します。

CFGは段ボール製なので軽量。製品の角の部分だけに当てることでコンパクトな裸梱包に近い形での包装が可能で、リサイクル率も高い包装資材です。このことが評価され、住宅設備メーカーや家電メーカー、自動車部品メーカーなどで使用されています。



CFG製品使用例



II. [地域活動への参加]

「社会貢献活動団体に於ける協定」を締結 (2020年7月～)

- ・ 弊社工場のある福岡県苅田町と「苅田町社会貢献活動団体に於ける協定」を締結し、活動をしています。

